

天野ゼミ

1丁の最先端へ

私こそが

4年 柴田 悠芽

入社では情報社会学を学んでいます。この6月に、レバレッジ株式会社が開催した「雨の日に楽しめるウェブアプリ」というテーマのもとに、グループごとにwebサービスを構築するイベント(ハッカソン)に参加しました。2日間でシステムの構想・構築と発表を行いました。『地域ごとに雨情報を伝える』機能を備えた地域SNSを開発したのですが、私はバックエンドを担当しました。バックエンドというのは、ユーザーの目に見えないデータの処理を行う部分のことです。

私のグループには早稲田大学の学生もいましたが、思い切ってチームリーダーに立候補し、発表も行いました。グループのリーダーとして難しかったのは、「役割の分担」を決めること、そして「モチベーションをあげる」ことでしたが、コミュニケーションを密に行なって解決していきました。ハッカソンの活動成果として、アプリの内容とチームワークが評価されました。また、作成したアプリはSNSなので自由度があり、デザインも優れていると認められ、とても嬉しかったです。

プログラミングを始めたのは明星大学に入ってから。入社での学びは就活にも役立っています。



Webアプリのプレゼンテーションの様相



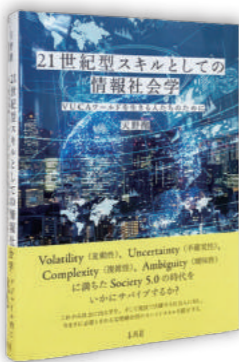
ハッカソンで作成したWebアプリの動作画面(例)

教員の | 活 | 動 | 報 | 告 | 書籍紹介



『辺野古入門』(2022年 ちくま新書) 熊本博之

普天間基地移設問題に揺れた辺野古集落の25年を、臨場感たっぷりに描き出した、基地問題の入門書です。



『21世紀型スキルとしての情報社会学—VUCAワールドを生きる人たちのために—』(2022年 春風社) 天野 徹

VUCAワールドに必要な21世紀型スキルの視点から情報社会学をリ・デザインしました。現役世代にもお勧めです。

学科からの お知らせ report

人間社会学科オリジナルホームページ充実!ぜひご覧下さい!

明星大学人文学部人間社会学科オリジナルホームページにて、卒業生の活躍をご紹介しますコーナー「卒業生は今」と「卒業後の進路と取得可能資格」を新設いたしました。明星大学の各種情報やSNS(TwitterやFacebook、Instagram)にもホームページ上よりアクセスいただけるようにリニューアルしております。また、この「ジンシャエール」のバックナンバーも全てご覧いただけます。本ページ右下のQRコードを読み込んでいただくか、URL [www.hino.meisei-u.ac.jp/soci/] よりお入りください。(広報チーム)



JIN-SHA YELL

ジンシャエール 2022.Nov. Vol. 30

人間社会学科、略して「ジンシャ」。ジンシャに関わるすべての人にエール(声援)を送ります!

学科交流会を実施

人間社会学科1年生の学科交流会を2022年5月10日、7月12日に実施しました。これらは、いずれも人間社会学科の有志の3年生と2年生の上級生が企画運営した交流会です。両日共に温かく明るい雰囲気での交流会となり、交流会で楽しみつつ、同級生や先輩との

つながりが生まれ、友人関係や大学生活の不安を解消することができたという声があがっていました。1年生がこれから先の大学生活を送る上で、とても良い機会になったようです。企画運営を行ってくださった3年生、2年生の上級生に感謝いたします。(荒井)

最初は緊張気味



第1回 交流会

第1回の交流会では、自己紹介やジェスチャーを交えた交流、履修登録や資格取得、勉強や研究の進め方など、今後の大学生活全般に関する相談会を実施しました。新入生の打ち解けていく様子と、上級生が場を和ませつつ優しく真剣に相談にのる様子が印象的でした。1年生から「先輩やゼミの仲間と楽しく関わることができ、人間社会学科に入って本当によかったと思いました」、「私たちの悩みを解決しようと優しく相談に乗ってくれる先輩をお手本にして、自分が同じ立場になった時に同じように新入生に関わりたいです」といった感想が寄せられました。

ジェスチャーも交えて交流



1回目のチャレンジ



第2回 交流会

初対面の後期ゼミのメンバーと協力しながら、バスタ、紐、テープ、マシュマロを使ってバスタのタワーを立てるワークショップ(マシュマロチャレンジ)を実施しました。1年生からは「初対面の後期のゼミメンバーとも1つのゲームで協力することで、仲を深められました」、「先輩たちが雰囲気を盛り上げてくださり、交流会を十分に楽しめました、後期ゼミも楽しみです」、「バスタの塔制作で学んだチームワークと計画、実行、評価、改善の流れをこれからは活かし、後期ゼミでも協力しながら楽しみたいと思います」といった感想が届けました。

打ち解けながら相談会



1回目を振り返り 2回目のチャレンジ

優勝チームは 81センチ! 世界記録(99センチ)まであと一歩!



企画・運営を行った上級生有志

- 3年生 井上武生・惠本真由・岡庭司・小久保昂・小島直己・齊藤裕太・佐竹晴陽・鈴木椋太・高橋隆真・中村真彰・長島優雅・早川洸生・松永優佳・山室亮介
2年生 池田陸人・大澤悠斗・黒田彩都美・今牟磨・西郷光瑛・千田凜・染矢楓・平英士・橋本七海・林良樹・渡邊采子

私が1年生の時はコロナ禍がはじまった時期でしたので、その分、今年の1年生には最初から楽しんでほしいと思ってました。ゲーム要素も含め、みんなでワイワイ盛り上がったのが良かったと思います。1年生たちの楽しかったと言ってくれた声や、楽しそうな雰囲気、様子を見ることができ、準備して本当に良かったと思いました。

準備や運営は大変でしたが、かわいい後輩たちとふれあえて良かったです。1年生のうちから沢山色んな人に会うことで沢山楽しい話ができます、沢山の楽しい経験もできると思います。そのきっかけにしてもらえたらとても嬉しいです。

授業や大学生活について知りたい時、なにかあった時に、ちょっと相談して悩みを解消できる顔見知りの先輩ができればいい、上級生との交流会を行いました。後期ゼミでは新しいメンバーで集まりますが、その時もスムーズに馴染んでくれると願っています。

やはり花の大学生、夢の大学生なので、夢と希望を持ってもらえればと思って取り組みました。まずは、今やれることはなんなのか、それを考えて大学生活を最大限楽しんでほしいです!



事前準備中の上級生



3年生



2年生



## 社会調査実習

### 鷗沢 クラス

## 学外活動復活！ 多摩地域を西へ東へ

私の担当する社会調査実習では、多摩地域の地域貢献ビジネス(コミュニティ・ビジネス)を対象に、参与観察やインタビューを中心に実施してきました。コロナ禍で学外活動が制限されていた時期を経て今年度久々に開講、3つに分かれたチームの概要は以下の通りです。調布と新島など伊豆諸島の交流を深めるとともに活性化を図っている調布アイランドの活動の一環として、調布観光フェスティバルにて新島の砂を使った砂絵イベントの企画から運営までを担ったチーム①。武蔵境の活性化を図るため発行されているフリーペーパー「iisakaii」を、地域に密着した広告イベント会社、スイベル&ノットのご指導のもと企画、取材からラフの制作、執筆まで担ったチーム②。「ここで育てたい」をキャッチフレーズに子育て支援を掲げる調布のカフェaonaの調査を皮切りに、子どもから青少年、高齢者にいたるまでの第3の居場所

「サードプレイス」をそれぞれの関心に従って調査したチーム③。冷や冷やすることが多々ありつつも、夏休みまでにほぼ主要な調査を終え、これから最終報告書の執筆に入る学生たちは、一回り遅くなったように感じられます。(鷗沢)



子育て支援カフェaonaでインタビュー



子どもたちに大人気!砂絵イベント

人間社会学科では、社会調査士資格を取得するための必修科目として「社会調査実習」が複数開講されています。その中で、唯一、量的調査(アンケート調査)を実施し、得られたデータを分析、結果を解釈することにより社会のさまざまな現象(事象)の「なぜ?」を明らかにすることを目的としています。今年度は、東京都内の大学生を対象に「職業および就職に関する意識と就職に向けての活動の実態」をテーマに調査を企画しています。3グループに分かれ「大学における学生生活」「大学以外での活動」「就職に対する意識と就職活動の実態」をサブテーマに、グループ内のメンバーとの議論、他のグループからの意見などを参考にしながら、調査項目を検討し、質問文や回答選択肢を作成しています。調査は、Google Formsを活用し実施する予定です。入学時からコロナの影響で、他の学生とのリアルな交流が制限された学生たちにとって、対面でメンバーと一緒に作業した経験は、今後の人生においてもきっと役に立つでしょう。

今後、得られたデータを分析し、レポートにまとめ、皆さんに公開する予定ですので、楽しみにしてください。(元治)



真剣に調査項目を検討



履修メンバー

### 元治 クラス

## 対面実習復活 みんなで一緒に対面で企画!

く姿を見て、とても心強く感じています。調査で身に着けた力を今後の人生を切り拓く力にも結び付け、活躍していくことを心から期待しております。(荒井)



クラス集合写真

### 荒井 クラス

## 若者文化を調査!

本社会調査実習では「明星大学の学生の生活と意識に関する調査」をテーマに、SNSやコロナ禍で大きな変化を遂げている、若者と社会の変化について研究を行っています。調査では学生の関心に沿い、若者の「SNS利用」「アニメ・映画コンテンツ消費」「恋愛」「オンラインゲームでの友人関係」の、4つの具体的なテーマを設定し、自分たちの身近な存在から読み解くことができる、現代社会の変化を明らかにしています。実習では、チームでのインタビューやフィールドワークを行いながら、調査の手法と、自ら仮説や調査設計を考え、調査を実践していく方法を学んでいます。前期中に大方のデータ収集を終え、現在最終報告書の執筆にとりかかる段階に至りました。苦労しつつも自分たち自身の頭で考え抜いて仮説を設定し、他者を思いやりながらも果敢にインタビューを行い、最新のIT技術を駆使して的確に情報をまとめ、自分の役割に責任を持ちながら協力して調査を進めてい

### 2年 藤原 日向

### 竹峰ゼミ

## 「心を動かす」 必要なのはドキドキ?

私は、2021年春に明星大学に入学し、島根から上京してきました。今は自分の将来に肩をツツツン突かれながら、風のように過ぎる大学生活をしっかりと掴まなくてはと何となく必死になっています。今年から竹峰ゼミに入り、あらゆる問題に目を向けている同級生に刺激をたくさん受け、夏にはゼミの仲間と広島合宿に行き貴重な体験をしました。

上京して見えてきたものは、地元である島根の姿でした。県庁所在地に全国唯一位置する島根原発や過疎化など、今まで見ていなかったものを、見るようになりました。

アルバイトでは地域で自立生活する障がい者の日常介助をしながら、障がい者の自立や差別解消にむけての啓

発活動に参加しています。自分のイメージとは真反対の障がい者の姿を見て、障がい者の自立や人が対等に向き合うことなどについて考えようとしています。

私はやりたいことをやる時に「何のために」とは考えておらず、動機は後付けで自分の興味に向かえるところが大学生の良さだと感じています。

正直今は、地に足がついていないように感じます。しかし、バイト先で重度の障害を持っている人に言われました。「私は、体は動かないけど心は動いている。あなたは、体は動くのに心が動いていない」。この言葉から、今は心を動かすためにたくさんの人と会って、場所に行き、ドキドキ刺激を受けている最中です。



ゼミの仲間と広島合宿をおこなった



この夏、久しぶりに島根に戻り、ゼミの友達と島根原発の周辺地域を訪ねた



バイト先の「自立ステーションつばさ」で地域のお祭りに参加

### 4年 坂口 大悟

私たち鷗沢ゼミでは2020年度から多摩大学長島ゼミ、明治大学奥山ゼミと協働で「高大生のためのオンライン会社見学会」というプロジェクトを進めています。新型コロナウイルス感染拡大による活動制限もあり2020年度、2021年度は鷗沢ゼミ主催で行うことはできませんでしたが今年度は日野市役所とエム・ケー株式会社を対象に実施することができました。4年の私、坂口は主に機器設定やzoomの円滑な運営を行う全体のまとめ役として参加させていただきました。3年生は司会やインタビュアーなど主に進行役として参加、2年生も積極的に現場に赴きました。今回行った会社見学会は先生方はじめ学生の皆さんからも、企業様にも大変ご好評をいただき「学生と話をしてこちらにもいい刺激になった」というコメントなどをいただきました。私は、今回オンライン会社見学会に参加してみて、実際に働いている方々に話を聞くことでしか得ることのできないリアルな経験談などを聞くことで、これから社会

人として動くということに対するイメージを持つことができました。自分の働き方を考えるうえで大変貴重な機会だと思うのもっと多くの人に参加していただきたいと感じました。



エム・ケー(株)でのオンライン会社見学会



オンライン企業見学会@日野市役所

### 鷗沢ゼミ

## 「高大生のための オンライン企業見学会」を 実施して